

30年8月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 8月1日～ 30年8月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
8月分の回答企業数は10社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/8月	9月	10月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 37.5	△ 25.0	△ 18.8
	マツ	△ 43.8	△ 43.8	△ 43.8
	広葉樹	△ 40.0	△ 40.0	△ 40.0
消費動向	スギ・ヒノキ	0.0	△ 7.1	△ 7.1
	マツ	△ 18.8	△ 12.5	△ 18.8
	広葉樹	△ 16.7	△ 5.6	△ 5.6
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 42.9	△ 50.0	△ 35.7
	マツ	△ 37.5	△ 43.8	△ 37.5
	広葉樹	△ 27.8	△ 33.3	△ 33.3

・スギ・ヒノキ原木の入荷動向は8月、9月の減少から10月は横ばいに。マツ及び広葉樹は3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキ、マツ、広葉樹の消費・在庫動向は3カ月連続減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/8月	9月	10月
スギ・ヒノキ	14.3	7.1	7.1
マツ類	0.0	6.3	6.3
広葉樹	5.6	5.6	5.6

・チップ用国産原木の購入価格動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

- ・8月の盆休みがあったことから仕入・消費ともやや減少（東北）。
- ・木質バイオマス発電用の燃料へ流れているためスギ、ヒノキとも入荷減少。在庫はスギ2.5→1.5カ月、マツ類0.5→0.2カ月、広葉樹2.0→1.0カ月（東北）。
- ・広葉樹原木の入荷は若干増加であるが、針葉樹の原木は減少（関東）。
- ・仕入動向は国有林からの丸太が徐々に出てきている。製紙用チップ、バイオマス燃料年の使用は安定している。増産ができる分の丸太があれば消費する体制はある。在庫が増やせるまでの丸太入荷がない（中部）。
- ・仕入、消費、在庫とも変動なし（中国）。
- ・大雨の影響や被害にスギ・ヒノキの仕入・消費動向は当月やや減少、翌月やや減少、翌々月は横ばい見通し（四国）。
- ・針葉樹、広葉樹とも入荷は良い状況で、このまま秋に向けてよい入荷状況が続くと予想。スギ・ヒノキの製紙用チップを増産中のため、広葉樹チップの消費を減らしている。スギ・ヒノキの仕入、消費とも良好であるが、原木在庫はやや増えると予想している（九州）。
- ・広葉樹原木の仕入は困難な状況が続いており、消費、在庫とも少ない状態が続いている（九州）。

(原木価格)

- ・バイオマス発電用の燃料との引合いでスギ・ヒノキ、マツ類原木が価格上昇。広葉樹原木も針葉樹つられて上昇（東北）。
- ・木質バイオマス関連が高値で購入しているため、針葉樹原木のみ値上げしている（関東）。
- ・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも変化なし（中部）。
- ・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも変動なし（中国）。
- ・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばいで変動なし（四国）。
- ・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばいで変化なし（九州）。

30年8月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/8月	9月	10月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 8.3	0.0	8.3
	マツ類	△ 21.4	△ 21.4	△ 21.4
	広葉樹	△ 31.3	△ 18.8	△ 18.8
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 8.3	8.3	8.3
	マツ類	△ 21.4	△ 21.4	△ 21.4
	広葉樹	△ 31.3	△ 18.8	△ 25.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 50.0	△ 50.0	△ 41.7
	マツ類	△ 50.0	△ 50.0	△ 42.9
	広葉樹	△ 43.8	△ 37.5	△ 28.6

・木材チップの荷動き動向は、スギ・ヒノキは8月の減少から9月は横ばい、10月は増加少に。マツ類、広葉樹とも3カ月連続減少。

・出荷動向はスギ・ヒノキは8月の減少から9月、10月は増加に。マツ類、広葉樹は3カ月連続減少。

・在庫動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも3カ月連続減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	30/8月	9月	10月
スギ・ヒノキ類	7.1	0.0	0.0
マツ類	6.3	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・チップの出荷価格動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも保合。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・原木入荷量減少に伴いチップ出荷量も減少（東北）。
 - ・木材チップの出荷量は、定期修理のあり減少である（関東）。
 - ・製紙用、ボード類用、燃料用ともに安定している。増産ができる分の丸太があれば、受け入れる体制はある。チップ在庫が増える程の原木入荷がない（中部）。
 - ・生産、出荷、在庫動向とも変動なし（中国）。
- 大雨の影響や被害にて仕入が減少したため、生産、出荷とも当月やや減少、翌月やや減少、翌々月は横ばい見通し（四国）。
- ・製紙用スギ・ヒノキのチップ増産依頼があり、工場の生産能力フル稼働のため、広葉樹の生産・出荷を減らしている。発電用の燃料チップは数量変わらず出荷している（九州）。
 - ・広葉樹原木の確保が困難な状態が続いており、木材チップの生産、出荷とも少ない状態が続いている。広葉樹チップの当月在庫なし（九州）。

(木材チップ価格)

- ・木質バイオマス発電の関係から木材チップは品薄。スギ・ヒノキ、マツ類ともやや上昇を見込む（東北）。
- ・木材チップの出荷価格は横ばいで、特に変動なし（関東）。
- ・スギ、ヒノキ、マツ類、広葉樹とも変化なし（中部）。
- ・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも出荷価格は変動なし（中国）。
- ・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも出荷価格は横ばいで変動なし（四国）。
- ・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも出荷価格は横ばいで変化なし（九州）。
- ・広葉樹チップ価格は横ばいで推移（九州）。